



# 香川県から遍路文化を世界へ ～香川県在住外国人のための遍路体験～

香川県総務部知事公室国際課

## 「外国人のための遍路体験」開催

遡ること14年前、2008年4月20日に、第80番札所国分寺から第81番札所白峯寺へ、そして第82番札所根香寺を目的地として、第1回目の外国人のための遍路体験を開催しました。香川県在住の外国人が遍路道を歩いて体験し、そのときの様子や感想などをホームページやSNSなどで国内外へ発信してもらうことで、「四国遍路」の世界遺産登録へ向けた機運醸成の一助としようとするのがこの企画のねらいです。

2022年までの14年間で、悪天候や新型コロナウイルス感染症の影響で何度か中止となることもありましたが、春と秋の年2回、開催合計27回、延べ36の国・地域から477人の外国人の方々に参加していただきました。



地域の方々のお接待を受けて

## 「四国遍路」とは

四国遍路は、徳島県、高知県、愛媛県、香川県（札所番号順）の四国4県にある、空海（弘法大師）ゆかりの八十八箇所札所霊場を巡る、全長約1,400kmの寺院巡拝です。なお、「遍路」という言葉は、四国八十八箇所霊場を巡る巡礼、およびその巡礼者そのものも遍路（お遍路さん）といいます。江戸時代、貞享4年（1687）に僧侶である「真念」が書いた『四国辺路道指南』によっ

て、八十八箇所の札所寺院とその順番が確定し、これが現在まで継続されています。

八十八箇所の札所霊場を結ぶ遍路道には、新旧多くの道標・丁石などがあり、地図にも載っていないような遍路道を迎えるお遍路さんにとっては、それらは無くてはならないものです。加えて、荷物も少なく歩き続けるお遍路さんのために、「善根宿（ぜんこんやど）」と呼ばれる無料の宿や、地元の方々の善意により、「お接待」として食事や物品などをお遍路さんへ提供する文化が、今も地域に根付いています。四国遍路文化は時代とともに変化する地域社会と共存して継承され、遍路道周辺の古い町並みでは、遍路を支えたかつての地域社会の様子を垣間見ることができます。

歩き遍路の他、様々な交通機関を利用して、コロナ禍前は年間約15万人もの人々が宗教や宗派を越え、それぞれの思いを込めて巡拝していた四国遍路はまさに生きた文化遺産と言えます。「先祖の供養」、「健康のため」、「精神修養」、「観光」、「病気の治療」など、巡礼する人それぞれが、それぞれの目的を胸に弘法大師の足跡を辿ります。ちなみに、お遍路さんが身に着けている笠などに書かれている、「同行二人（どうぎょうににん）」とは、今も遍路で修行を続けているとされる弘法大師とお遍路さんの二人づれという意味で、お遍路さんの心の支えになっています。



傾斜が急でイノシシも出没する下り遍路道

## 「四国遍路」を世界遺産登録へ

お遍路さんが安全で快適に巡礼できるよう手入れされた遍路道や道標、さらにお接待など共助の心は、多くがボランティアなど地域の方々の好意により引き継がれてきました。千年を超えて地域と共存し継承されてきた日本の代表的な文化遺産である四国遍路は、次世代に引き継いでいくべき重要な文化です

そこで、以下に示した体制のもと、四国が一体となり世界遺産登録に向けた総合的な推進体制である「四国遍路世界遺産登録推進協議会（旧・『四国八十八箇所霊場と遍路道』世界遺産登録推進協議会）」が2010年3月16日に設立されました。

<組織>

【会長】四国経済連合会会長

【副会長】四国4県知事

【構成員】四国4県、58市町村、地方支分部局、大学、霊場会、経済団体、NPO法人

同協議会の目的は、「千年を超えて地域と共存し、継承されてきた日本の代表的な文化遺産である四国遍路文化を後世へ確実に受け継いでゆくためには、構成する資産を保護するとともに、その文化的価値を国内外に向けて発信し理解を深めることが必要である。これまで多様な主体が四国遍路文化の保存・継承に向けた活動を行っており、こうした活動を確かなものにするため、四国が一体となり、世界遺産登録に向けた総合的な推進体制である同組織を設立した」となっています。私たち香川県国際課は、上記目的にある、四国遍路の「文化的価値を国内外に向けて発信し理解を深める」取組みの一助となるべく「外国人のための遍路体験」を始めました。



インタビューを受ける外国人参加者

## 第27回外国人のための遍路体験報告

2022年11月12日、秋晴れの中、第84番札所屋島寺～第85番札所八栗寺～第86番札所志度寺のルートで、「外国人のための遍路体験」を開催しました。県内在住の中学校や高等学校に勤務するALT（外国語指導助手）、香川大学の留学生、そして県庁で働くCIR（国際交流員）などが、遍路道を大先達さんの案内のもと歩きました。9時45分に屋島の麓にある大宮八幡宮を出発。屋島山上へ向け上り坂を歩きました。途中「加持水（かじすい）」や「不喰梨（くわずのなし）」の説明を聞き、50分で屋島寺に到着。参拝の後、山上から瀬戸内海や高松市の絶景を満喫しました。そして、今回の遍路体験で最も過酷な、屋島の下り遍路道へと進みます。傾斜が急で、木の根っこが出ているところや土が滑りやすいところもあります。イノシシにも注意しながら、金剛杖を上手に使用して無事麓に到着です。少し歩き、江戸時代に四国八十八箇所霊場を庶民に広めた遍路の父「真念」の墓がある洲崎寺でお参り。そして、洲崎寺から徒歩10分のところにある、「中村節朗石材」にて、NPO法人遍路とおもてなしのネットワークの皆様のご協力により、うれしいお接待をいただきました。私たちが到着するタイミングを見計らって作っていただいた出来立ての菜汁が、疲れた体に染み入りました。次の目的地八栗寺に続き、本日の最終目的地である志度寺へ歩を進めます。夕方には全員無事に志度寺に到着し、本日のお遍路体験は終了です。参加者は紅葉を楽しみながら、お遍路文化を心行くまで満喫しました。



参加者の笑顔に私たちも力をもらいます

香川県国際課としては、今後も引き続き、遍路体験を通しての国際交流とあわせて、四国遍路の世界遺産登録への機運醸成に貢献していきたいと考えています。